

昨年度（R7）の福津市小中学校 いじめ問題にかかわるデータ

令和8年5月21日
福津市教育委員会

令和7年度福津市小中学校いじめに関する資料

【資料元】

- 文部科学省 令和7年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査
- 令和7年度月例報告
- 全国学力学習状況調査・児童生徒質問紙

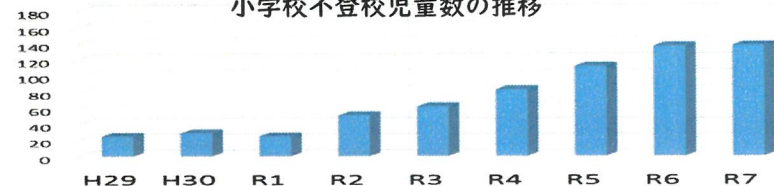
全市児童数	全市生徒数	児童生徒数計
5056	2271	7327

（注）大規模校のデータの影響が大きい

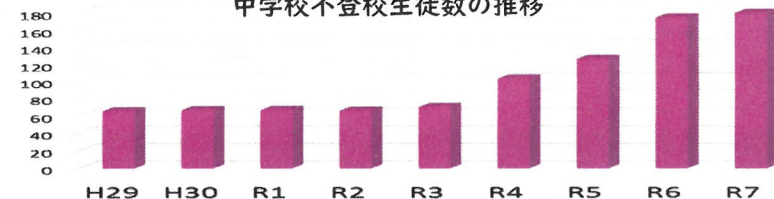
不登校数はいじめ認知件数と反比例する

0. 福津市学校の不登校数の推移

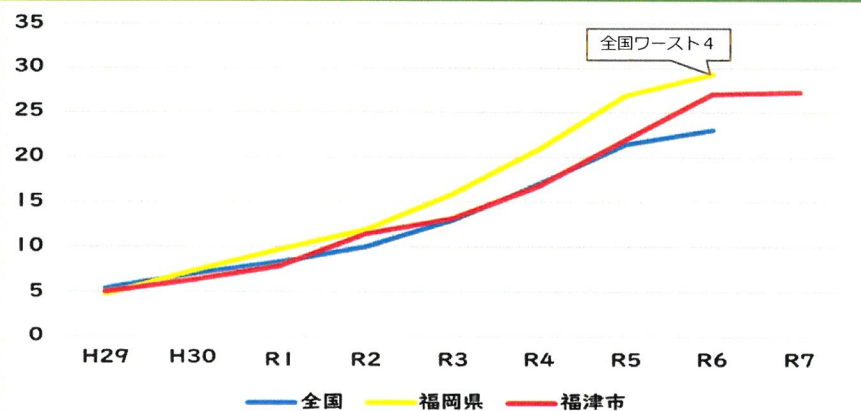
小学校不登校児童数の推移



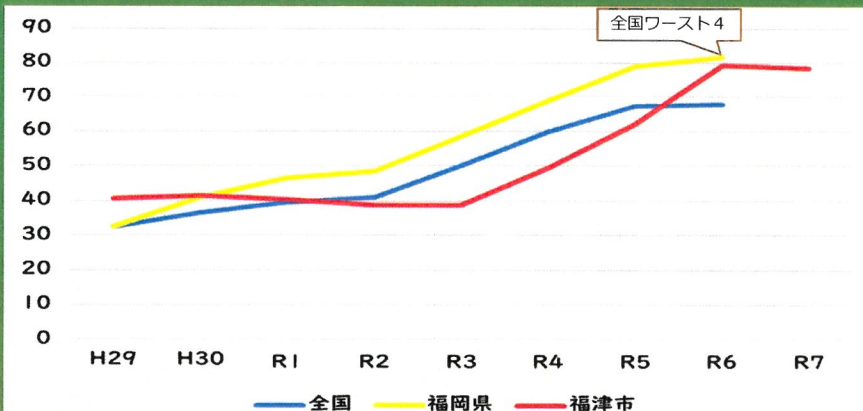
中学校不登校生徒数の推移



0①. 小学校1000人あたりの不登校数の推移



0②. 中学校1000人あたりの不登校数の推移



0③. 不登校の経年比較～直近3年間で

	A校	B校	C校	D校	E校	F校	G校	H校	I校	J校	小中合計	小合計	中合計
R5.3月末時点の不登校生徒数	4	5	33	4	29	35	2	69	20	36	237	112	125
R6.3月末時点の不登校生徒数	9	4	42	4	24	54	0	106	26	41	310	137	173
R7.3月末時点の不登校生徒数	10	4	34	4	31	54	1	107	29	42	316	138	178

- ・全市の児童生徒数は91人増加
- ・不登校児童生徒数は全市で6人増加

- ・C校の全校児童数は30人増加
- ・C校の不登校児童数は8人減少

1①. 学校ごとのいじめの認知件数

	A校	B校	C校	D校	E校	F校	G校	H校	I校	J校	小学校計	中学校計	全体計
認知件数	15	44	269	17	410	328	19	40	25	47	1102	112	1214
全校児童生徒数	280	131	1505	444	1545	1065	86	1308	441	522	5056	2271	7327
認知率	5.4%	33.6%	17.9%	3.8%	26.5%	30.8%	22.1%	3.1%	5.7%	9.0%	21.8%	4.9%	16.6%

I ②. H29～R7 いじめ認知件数経年比較

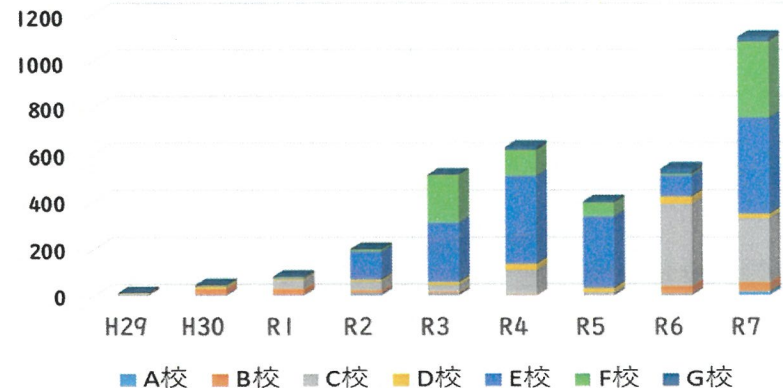
	A校	B校	C校	D校	E校	F校	G校	H校	I校	J校	小学校計	中学校計	小中計
H29	2	3	1	1	1	3	0	17	29	1	11	47	58
H30	2	28	2	5	2	5	1	3	22	10	45	35	80
R1	2	28	35	5	5	5	1	20	11	6	81	37	118
R2	8	15	38	6	121	10	1	26	16	3	199	45	244
R3	7	11	28	10	253	204	1	25	29	13	514	67	581
R4	1	6	102	26	373	110	13	28	14	14	631	56	687
R5	1	4	8	18	304	60	5	91	55	24	400	170	570
R6	5	38	345	32	90	7	22	41	55	25	539	121	660
R7	15	44	269	17	410	328	19	40	25	47	1102	112	1214

○ 市内いじめ認知件数は、昨年度の2倍

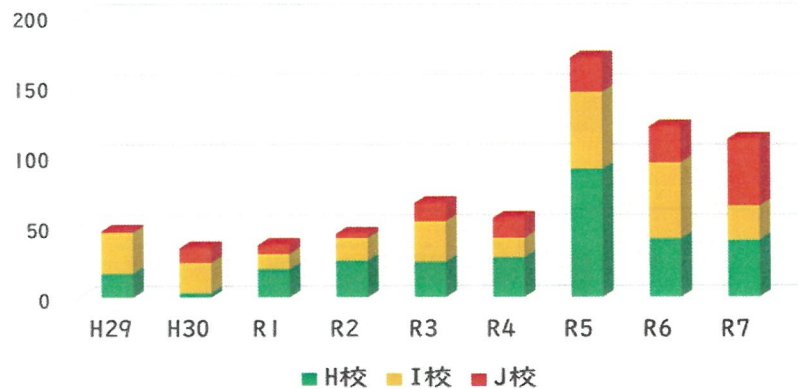
○ 小学校数校で激増（意図的に「小さな嫌な思いをひろう」）

※ 積極的認知の成果

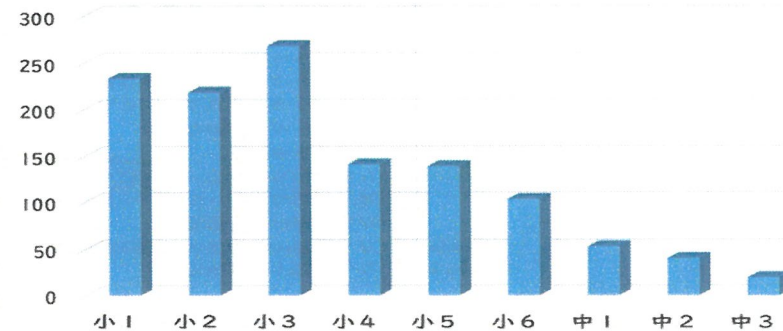
I ③. 小学校のいじめの認知件数の推移



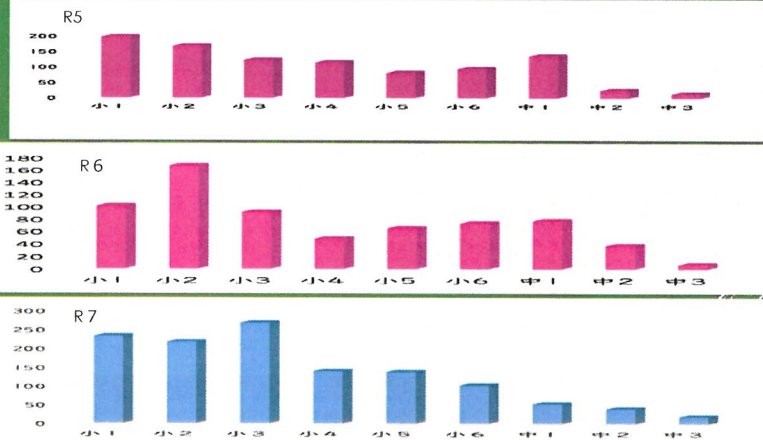
I ④. 中学校のいじめの認知件数の推移



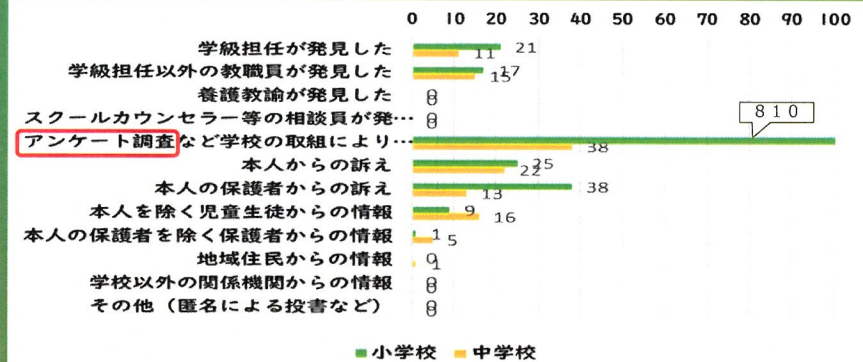
2 ①. 学年ごとのいじめの認知件数



2②. 学年ごとのいじめの認知件数(過去3年)

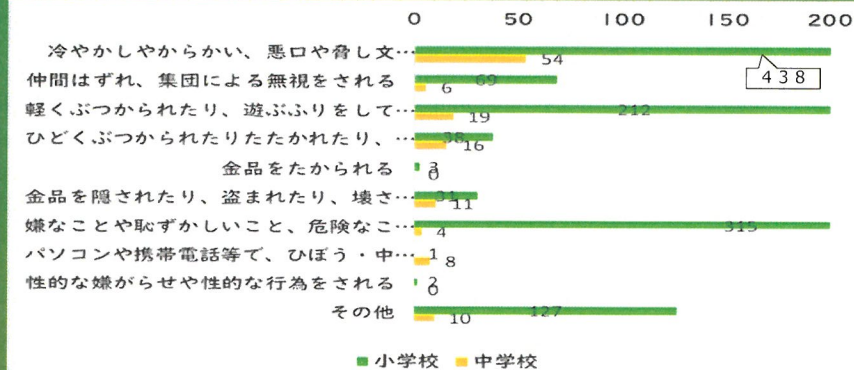


3. いじめの発見のきっかけ



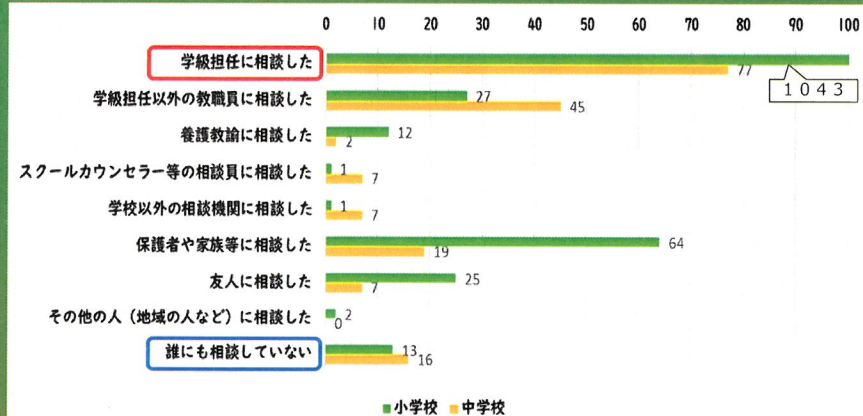
○ いじめ発見の多くはアンケート調査による。本人の訴えや保護者からの訴えも多い。

4. いじめの態様



○ 軽微な「嫌な思い」を意図的に早期に拾い上げている(問題視している)見方もできる

5. いじめられた児童生徒の相談の状況



345の特徴をまとめると

① いじめの態様

- 「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が一番多い。
- 「パソコンや携帯電話等での誹謗中傷」が大きな問題になるケースが多い。

② いじめ発見のきっかけ

- アンケート調査による発見が多い。
- 本人からの訴えや保護者からの訴えが多い。

③ いじめられた児童生徒の相談の状況

- 「学級担任に相談した」が一番多い。
- 「誰にも相談していない」が気になる。

【児童生徒課長通知(H28.3.13)】

文部科学省としては、**いじめの認知件数が多い学校**について、「いじめを初期段階のものも含めて積極的に認知し、その解消に向けた取組のスタートラインに立っている」と極めて肯定的に評価する。

いじめを認知していない学校にあっては、…解消に向けた対策が何らとられることなく放置されたいじめが多数潜在する場合もあると懸念している。

1000人あたりのいじめ認知と不登校数

全国平均小中学校いじめ認知数=61.3

福岡県小中学校いじめ認知数=36.7(全国ワースト12)

福津市内小中学校いじめ認知数=166

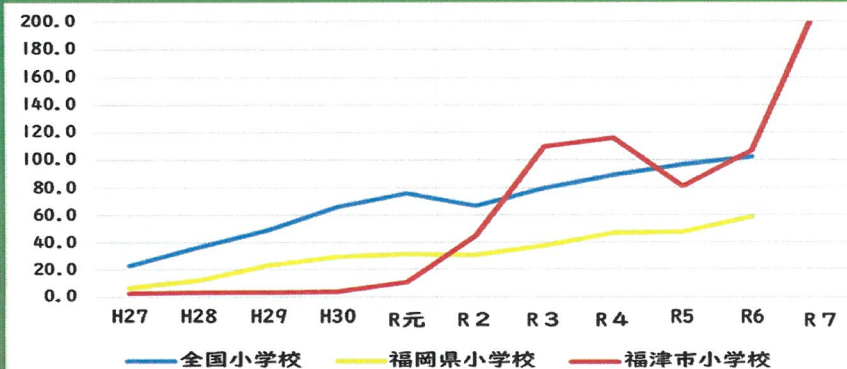
全国平均小中学校不登校数=38.6

福岡県小中学校不登校数=47.2(全国ワースト4)

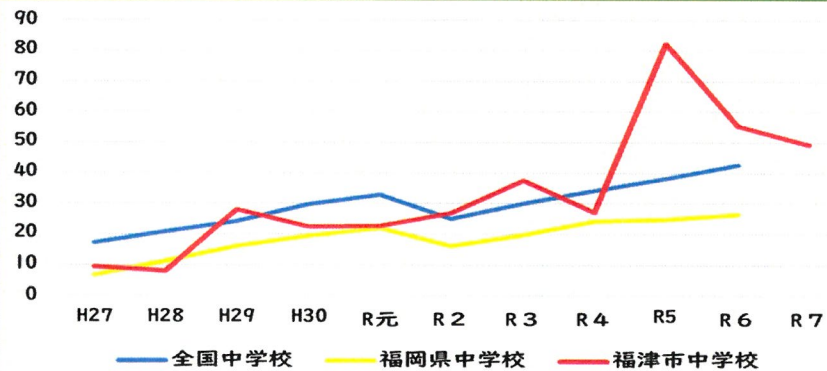
福津市内小中学校不登校数=43.1

6①. 全国・県との比較

小学生1000人あたりの認知件数(認知率)



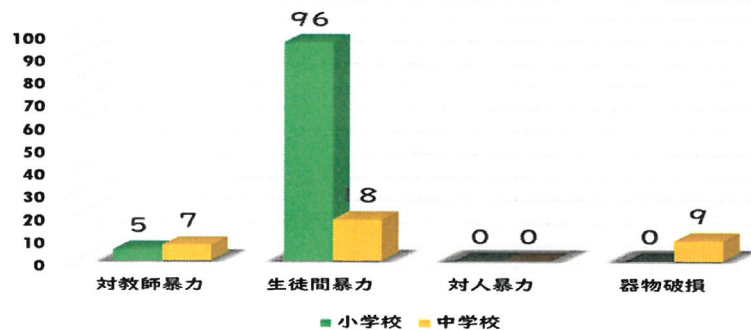
6②. 全国・県との比較 中学生1000人あたりの認知件数（認知率）



7. その他

- いじめの認知件数のうち、警察に相談・通報した件数 = 0件
- いじめの重大事態の発生
 - 令和7年度 = 小学校1件（第1号）
 - ・小5女子児童への集団によるいじめ
 - 令和6年度 = 中学校1件（第1号、第2号）
 - ・中2男子生徒への複数人でのSNS上でなりすましによるいじめ
 - 令和5年度 = 中学校1件（第1号）
 - ・中1女子生徒への集団によるいじめ

7③. 暴力行為の発生件数



- 「対教師暴力」は支援級の子が暴れてのことが多い。
- 「生徒間暴力」も軽微なものを放置せず丁寧に指導している。

8. いじめの解消

	解消	解消していない	
		認知から3か月以上	認知から3か月以内
小学校計	692	194	216
解消率	62.8%		

	解消	解消していない	
		認知から3か月以上	認知から3か月以内
中学校計	109	0	3
解消率	97.3%		

9①. 全国学力学習状況調査・児童生徒質問紙より

(9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

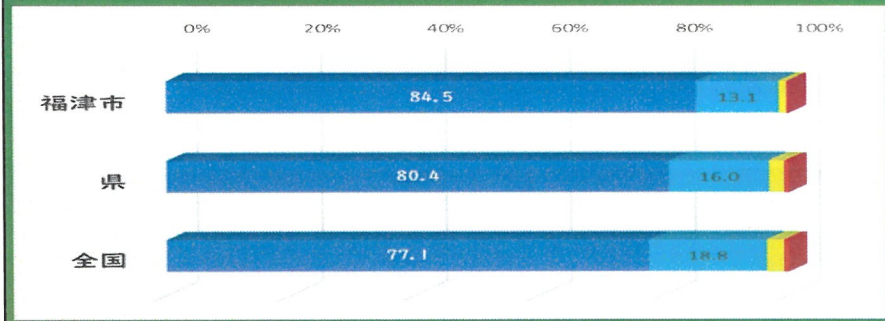
1.している 2.どちらかといえばしている 3.あまりしていない 4.全くしていない
小学校6年生



9②. 全国学力学習状況調査・児童生徒質問紙より

(9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

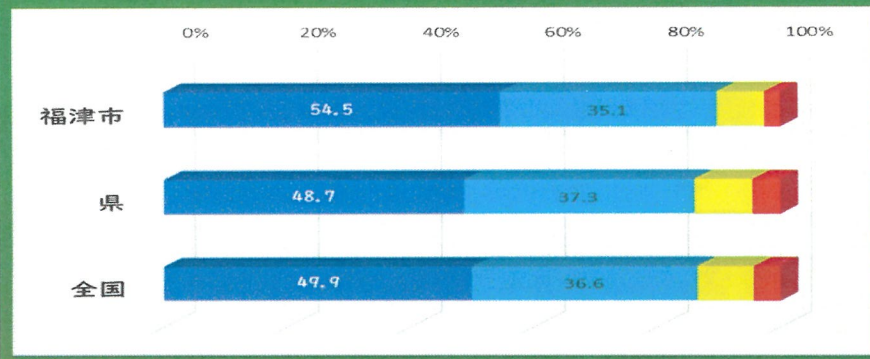
1.している 2.どちらかといえばしている 3.あまりしていない 4.全くしていない
中学校3年生



9③. 全国学力学習状況調査・児童生徒質問紙より

(12) 学校に行くのは楽しいと思いますか

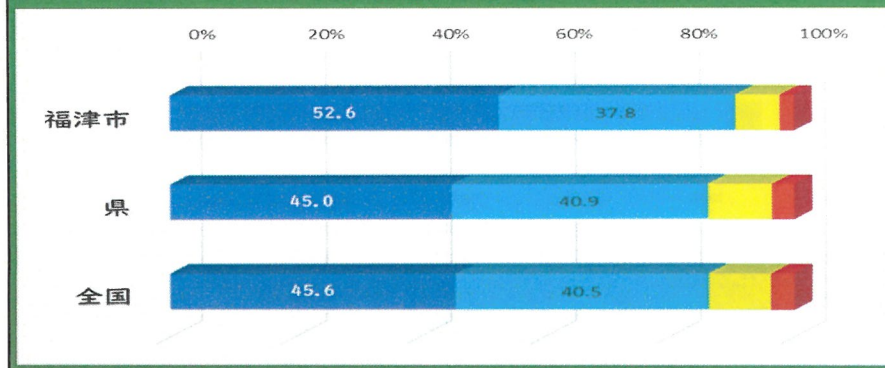
小学校6年生



9④. 全国学力学習状況調査・児童生徒質問紙より

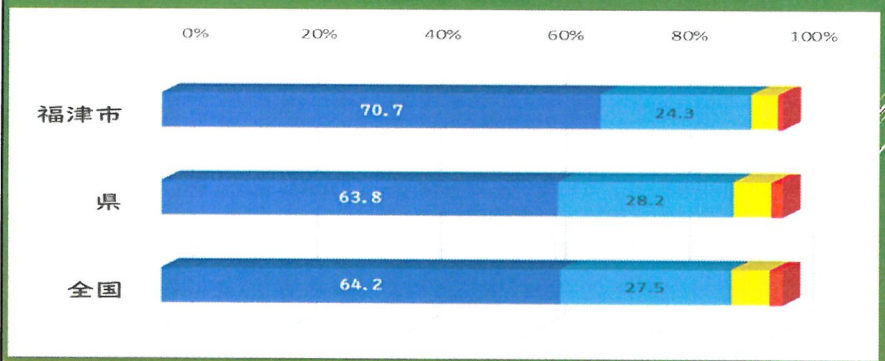
(12) 学校に行くのは楽しいと思いますか

中学校3年生



9⑤. 全国学力学習状況調査・児童生徒質問紙より

(14) 友達関係に満足していますか
小学校6年生



9⑥. 全国学力学習状況調査・児童生徒質問紙より

(14) 友達関係に満足していますか
中学校3年生



9⑦. 全国学力学習状況調査・児童生徒質問紙より

(15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることは
小学校6年生



9⑧. 全国学力学習状況調査・児童生徒質問紙より

(15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることは
中学校3年生



10. いじめに関する調査結果の分析

- ① 意図的に「嫌な思い」を拾う目的の認知件数が大幅に増えている。
- ② 小学校・中学校ともに1年生での発生が多い。
これは、暴力行為の学年ごとの発生状況も同じ傾向がみられる。
- ③ SNS絡みのいじめの発生件数の増加と問題発見・指導・解決の困難さがある。
- ④ 3年続けて重大事態が発生している。

10. いじめに関する調査結果の分析

- ⑤ いじめ発見のきっかけとしてアンケートが有力な手段であることがわかる。すべての学校がアンケートを月1回実施しており、いじめの早期発見・早期対応に効果がみられる。
- ⑥ 発達障害をかかえる児童生徒が関係するいじめ問題の発生の増加と指導の難しさがある。
(支援学級の子の暴力行為も増えている)
- ⑦ 不登校生の中に隠れたいじめがないか注視する必要がある。

11. 昨年度の反省～2月6日校長会で提示

いじめ問題への対応について、本年度実際に起こった事例で反省すべき点がある。

一つは、不適切な初動である。初期対応が遅れたり適切でない対応をしたりしたため、問題が悪化したり重大化したりするケースが散見された。若い先生が増えた中、聴き取りをはじめとした初動の在り方について各学校とも年度初めに研修すべきである。特に、事象を問題化する眼力。学年内の情報の素早い共有。学年主任のきめ細かな声かけと組織的対応の徹底。対応後の見取りとフォロー。

二つは、いじめの認知件数が多い学校とそうでない学校の差が大きい。多い学校は、ちょっとした嫌な思いやからかい等をきめ細かく拾い上げて丁寧な指導を重ねている。その姿勢が不登校減少の一因と考えられる。一方、いじめやからかい、暴力等を見逃したり見落としていたりしているのではないかと報告もある。一番避けなければならないのは、問題を問題として認識しない、あるいはできないことではないか。

12. R7学校と市教委の取組の成果

- ① 「小さな嫌なこと」を細かく拾い上げて丁寧に対応する学校が増えた。→認知件数の増加
- ② 対応組織の整備、組織的対応の強化
・「いじめ防止基本方針」は全10校でホームページに掲載され、保護者等の閲覧がある
- ③ いじめ問題と不登校支援を分割し、担当者会・研修の増加

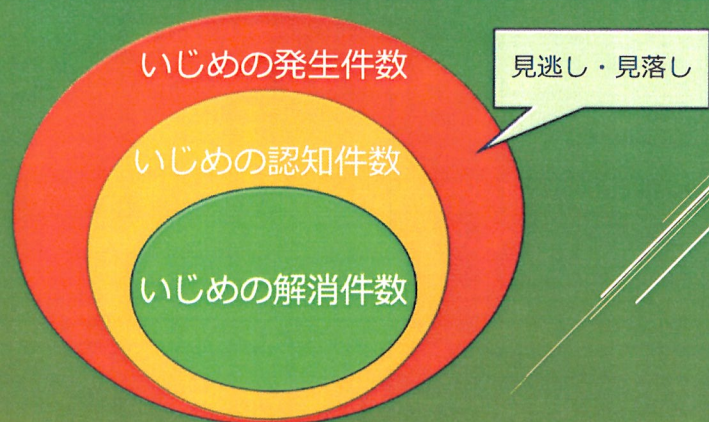
Ⅰ 3. R7学校と市教委の取組の課題

- ① SNS・ネット上のいじめの増加と対応の難しさ
- ② いじめアンケートの改善
- ③ 対応の初動の改善
- ④ 長期化・深刻化・未解決の問題への対応
- ⑤ いじめに対する教職員の意識向上

Ⅰ 4. いじめに関する令和8年度の取組の重点

- ① いじめを生まない学校風土づくり
・学校・教職員の信頼の強化・向上
・安心・安全を重視した学校づくり
・いじめを許さない集団作り
- ② いじめの解消件数をいじめの認知件数に近づけ、
いじめの認知件数をいじめの発生件数
に限りなく近づける。
※ いじめの見逃し・見落としをしない

Ⅰ 4. いじめに関する令和8年度の取組の重点



Ⅰ 4. いじめに関する令和8年度の取組の重点

- ③ 学校生活へ不安や悩みを感じている児童生徒への
寄り添い→アンケート・教育相談・個人面談の充実
- ④ いじめへの対応力の強化
・校内研修、職員会議等での意識統一・研修
・いじめ防止校内委員会（校内組織）の充実
→初動、初期対応、聞き取りの方法、保護者連絡等
・SNS・ネットいじめへの対応
・基本方針やガイドラインの見直し
・いじめ対応伴走支援事業の立ち上げ（文科モデル）